

地質情報インデックス検索システム (G-INDEX) と地質情報の標準化

Management of Standard Format Data on G-INDEX

川畑 大作 [1]; 村田 泰章 [2]

Daisaku Kawabata[1]; Yasuaki Murata[2]

[1] 産総研; [2] 産総研

[1] Geoscience and Technology, AIST; [2] GSJ, AIST

産業技術総合研究所 (以下、産総研) の第 2 期研究戦略における地質分野では、地質図を基本とする、地球物理情報、地球化学情報、資源分布情報、地質環境情報、ボーリングデータ、地下水情報などの、産総研内の関係研究ユニットにおける各種空間情報の共同活用が、優先度の高い戦略課題となっている。現在、産総研において、空間情報として公開できるデータベース要素が、地質分野を中心に広く存在し、その一部は研究情報公開データベースシステム (以下 RIO-DB と称する) として公開されている。産総研では、地質情報に関する各種データベースや数値地質図等の総合的な検索システムとして、地質情報インデックス検索システム (G-INDEX) を開発し、公開している。

G-INDEX は、既存のデータベースの様々な情報を網羅的に検索することを目的としており、例えば G-INDEX で検索した後、さらにデータの詳細を調べるために、検索条件を維持したまま個別データベースへアクセスするなど、それぞれの地質情報に特有な検索・表示は各データベースで行うことをコンセプトとしている。主な機能は、(1) WebGIS を使ったグラフィカルなものとレスポンスを重視したテキスト表示でのデータベース検索、(2) 選択したデータベースのレイヤ操作、表示、(3) 選択したデータベース中のファイルの検索、参照、(4) 個々のデータベースへの接続、指定パラメータを使った解析、(5) データのダウンロードである。現在、G-INDEX の追加機能として、他機関のデータベースと連携する機能 (WMS、WFS 機能) を開発中である。また、現在の G-INDEX では、G-XML2.1 のフォーマットに準拠しているが、今後世界標準化規格になりつつある GML や GeoSciML への対応を実現しつつある。